

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2019年1月1日 184号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

迎春

2019年

(平成31年)



パラグアイ河畔にて、レダプロジェクト創始者の言葉を学ぶ、第18回国際協力青年奉仕隊員たち。



二〇一九年元旦
南北米福地開発協会
代表理事 中田欣宏

新春のお慶びを申し上げます

今年はレダ開拓二十周年を迎える年です。
この間の皆様方の並々ならぬご尽力、ご
支援に対し心より感謝申し上げます。

一九九九年八月以来、ただ一心に創始者の願いに応え「為に生きる」理念と、眞の愛による神の国のモデルを築かんと、多くの犠牲を払いながら黙々と歩んでまいりました。そして今、目指すゴールの姿が少しずつ見えるようになってきました。

二十年間に流した血と汗と涙が、地域住民や指導者のみならず、世界の若者たちの心を動かし、自らの意志で先輩の歩んだ道を引き継ぎ、夢を実現したいと立ち上がつてくれるようになつてきました。

世界が激動し、先行きが容易に見えないような昨今ですが、また同時に、新たな希望のうねりが世界を動かそうとしています。混沌・混沌の時代は、フレッシュな希望の創造される時であります。すでに時は満ち、夢の実現が手に届く時を迎えていきます。このように二〇一九年は、昨年以上に、内外ともに大きな変革の年となるでしょう。我々も「希望ある変革」の弛みなき担い手として、従来「見捨てられた地」と言われてきたパンタナールの果てから世界に向かつて、具体的で目に見える希望のメッセージを力強く発信し続けて行きましょう。

2018年 レダ基地では



養殖学の専門家、鮮文大の權赫樞教授が到着。1月26日



マグノ教授が稚エビを点検。



稚エビ1800匹が到着。1月24日。



南米21日研修会。1月13日～2月2日。研修生20名参加。



奥迫夫妻がオニテナガエビの養殖研究に没頭。



第6回パクー稚魚放流式。5月4日。



GPA(Generation Peace Academy)のレダ来訪。3月1日～8日。19名参加。



タロイモ田で作業する、中期ボランティアたち。



中期ボランティアの若者が、男女ともに増える。4月6日撮影。



1年間の活動を終えて。7月27日。



シニアツアー。7月15日～26日。



権炳樞教授と2名のインターン生が到着。7月4日。



国立アスンシオン大学と当会現地法人が相互協約に調印。8月17日。



韓鶴子総裁のブラジル大会に参加。8月4日～5日。



第18回青年奉仕隊がレダ基地で体験学習。9月3日～9月7日。



第18回青年奉仕隊がトロパンパで奉仕活動。8月30日～9月3日。



土地の境界を明示する鉄線の柵。



パクーの販売のため新しく導入した冷凍車。



共に長期で歩む岩澤夫妻。11月22日撮影。



北部の新基地の名は、プエルト・カナン。



日陽園北部に新しい基地の建設が進行中。

